

漁業の魅力を発信

—長井町漁協の朝市部会—

主任研究員 田口さつき

1 漁協による定期市の開催状況

当社が実施した「2014年度漁協アンケート」によると、回答漁協の18.5%が管内で定期市を企画・開催していた。^(注1)

定期市は、漁業者や漁協にとって単に水産物を販売するだけでなく、消費者と直接対話し、漁業の現状や魅力を伝え、消費者からのニーズをくみ取る場となっている。ただし、定期市を続けていくには、運営方法の工夫などが必要となる。以下では、神奈川県横須賀市の長井町漁協の朝市について紹介したい。

2 朝市部会での話し合い

長井町漁協(以下「組合」)は09年から毎月第2土曜日の午前9時から魚市場で朝市を開催している。

この朝市を企画・運営するのが、朝市部会である。朝市はもともと青年部を中心となつて行っていたことから、朝市部会の部員は若い漁業者である。なお、組合では、組合員で

はない協力者に朝市の応援をお願いし、広報(1人)と駐車場の案内・整理(2人)を担っていただいている。これらの協力者は、漁業者の友人で、朝市への興味から当初は無償で手伝いをしていたが、現在では組合がパートタイマーとして雇用する形態をとっている。

朝市部会部員と朝市の広報担当者は、毎月第1金曜日の午後5時から組合に集まり、「朝市会議」を行っている。部員は忙しい仕事の合間を縫って会議に駆けつける。

朝市の広報担当者が、議題を黒板に書いて提示する。また、直近2か月の朝市の来客数の推移を過去と比べて示し、次回予想される来訪者数を伝える。漁業者は、それぞれ漁獲が期待される鮮魚の情報を伝える。このなかから朝市のアピールする点を出し、ウェブサイト^(注2)に広報担当者が掲載する。会議では、来訪者の動線や今後の運営のあり方なども協議される。

朝市の活動実績の振り返りを通じて、「大抽選会」といった新たな試みが生まれた。これは、朝市に参加する漁業者が自慢の一品を抽選で来訪者にプレゼントするものである。(入場)整理券は抽選券も兼ね、当日の午前6時半から先着順に配られる。

3 朝市当日の熱気

筆者が訪れた15年6月の朝市は、300人を超える来訪者が詰めかけた。その多くは家族連れであり、若い人も多かった。

乗客数			
	2015	2014	2013
3月	345	272	250
4月	226	262	223
5月		256	132
		晴れ	

朝市部会で来客数を検討

場内では漁業者がそれぞれの販売コーナーに水産物を並べた。地魚、イカ、マグロと目玉となる商品が重ならないよう配慮され、加工品も充実していた。また、女性部は手作りのタコ飯、イワシのから揚げを、近隣の飲食店は海鮮丼やパン・ケーキを販売していた。

来訪者は整理券を入手すると、買い求めた^(注3)軽食を場外で食べながら、朝市が開始されるのを待った。午前8時55分になると、来訪者は市場入口にて整理券の順に整列するよう、朝市部会の担当者から声がかかった。その際、慌てず、順序を守って場内に入るよう注意を受けた。9時に入場が始まると、来訪者は思い思いのコーナーへと進んだ。漁業者やその家族が販売を担当し、商品の説明も行った。「鰯の丸干し 弱火であぶるとおいしい」など、商品のトップも説明がしっかり書かれていた。また、「イカの王様 アオリイカ」など、威勢のいい掛け声が響いた。気に入った商品を購入すると、購入者は自ら箱詰め、氷詰めを行った。発砲スチロールの容器を持参する来訪者も多く見られた。

9時半になると、再び静けさが戻り、人々は市場中央に集まつた。そこには、抽選会のプレゼントが書かれた看板が運びこまれていた。恒例の抽選会だ。多くの歓声が飛び交つた後、抽選会が終わると、次は出展漁業者の高級水産物を1セットにしたものをめぐり、来訪者が買い手となってセリが始まった。漁

(注1)「2014年度漁協アンケート」は全国漁業協同組合連合会の会員漁協を対象にし、616組合から回答を得た。「定期市は朝市、日曜市など定期的に年2回以上開催するもの」と定義した。

(注2)2009年開設。<http://sea.ap.teacup.com/nagai/3.html>

(注3)これらは朝市前でも購入できる。



抽選会を見守る人々

業者がセリ人となってその場を盛り上げた。

購入時の漁業者とのかけあい、抽選会、セリが一体となって朝市の楽しさを引き立たせていた。朝市部会のアンケート調査によると、来訪者は、埼玉県、東京都、千葉県など管外の住民が多く、リピーターも増えているそうだ。

4 朝市からの波及

このような朝市の活気が、地域での組合のプレゼンス向上にも寄与している。

14年には、JAよこすか葉山の直売所「すかなごっそ」内に「さかな館」として組合直営の販売店がオープンした。農産物だけでなく、水産物も地元のものが購入できるとして、好評であり、さかな館では女性部のタコ飯も販売されている。

また、地産地消に熱心な横須賀市は、14年9月から「よこすか海の幸フェア」を開始した。開催期間中(約3週間)に市内産の魚介類3~4種を取り上げ、「フェア参加店」となる市内の飲食店で提供を行うとともに、販売店においてもPR販売を行う企画を推進している。朝市会場では、フェアのガイドブックが配られるなど、コラボレーションが進んでおり、漁業者の熱意が朝市の活気を生み出し、それがさらに地域社会へ波及している。

(たぐち さつき)